逍遥館長的こころ

「なんでも勝てばいい と いうものでもない、のこころ」

5月4日　逍遥

今日5月4日は、「公武合体派」の代表格であった「薩摩・島津久光、越前・松平春嶽、土佐・山内容堂、宇和島・伊達宗城」により、合議による政治改革を目指そうとした「四侯会議」の第1回が京都・越前藩邸で開催された日です。この日を皮切りに、「長州処分」及び「兵庫開港」を主な議題として、5月中に計8回開催され、将軍・徳川慶喜との交渉に臨んだものの、慶喜側との主導権争いから、結局この「四侯会議」は挫折。ここに至り、薩摩の首脳陣も「公武合体」を諦めざるを得なくなったのでした。

ちなみに、第5回の四侯会議（5月14日開催）の最中、写真好きの慶喜の提案で、二条城において慶喜自ら撮ったとされる四侯の記念写真が残されています。逍遥館長的にはこれも慶喜の作戦の一つかな、と思えますが、この時の慶喜の粘り勝ちが、結局は討幕への大きな転換点となったのでした。

歴史に「もし」は禁物ですが、この「四侯会議」がもし上手く活用されていたなら、その後の日本は果たして？ と どうしても考えたくなります。

◎ 次回の予定「外なる敵 と 内なる敵、こころ」